

大连理工大学2010年度教学改革基金课题项目

高 / 级 / 日 / 语 / 系 / 列 / 教 / 程

高级日语

第 **2** 册

大连理工大学外国语学院日语系 组织编写

主 审: 杜凤刚 李筱平
总主编: 孟庆荣
主 编: 穆 红 王 冲
副主编: 王玉明 赵丽红



大连理工大学出版社

大连理工大学2010年度教学改革基金课题项目

高 / 级 / 日 / 语 / 系 / 列 / 教 / 程

高级日语

第 2 册

大连理工大学外国语学院日语系 组织编写

主 审: 杜凤刚 李筱平
总主编: 孟庆荣
主 编: 穆 红 王 冲
副主编: 王玉明 赵丽红
编 者: 孟庆荣 穆 红 王 冲 王玉明
赵丽红 鲁 畅 闻 艺 李 捷
唐晓煜 孔 月 李光赫
校 对: 武田美树 [日]



大连理工大学出版社

图书在版编目(CIP)数据

高级日语. 第2册 / 孟庆荣, 穆红, 王冲主编. —
大连: 大连理工大学出版社, 2012. 8
高级日语系列教程
ISBN 978-7-5611-7102-8

I. ①高… II. ①孟… ②穆… ③王… III. ①日语—
高等学校—教材 IV. ①H36

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2012)第 158156 号

大连理工大学出版社出版

地址: 大连市软件园路 80 号 邮政编码: 116023

发行: 0411-84708812 传真: 0411-84701166 邮购: 0411-84703636

E-mail: dutp@ dutp. cn URL: http:// www. dutp. cn

大连力佳印务有限公司印刷 大连理工大学出版社发行

幅面尺寸: 185mm×260mm	印张: 18.5	字数: 125 千字
2012 年 8 月第 1 版	2012 年 8 月第 1 次印刷	

责任编辑: 宋锦绣

责任校对: 张琳 苏阳 李昕宇

封面设计: 夏文娟

ISBN 978-7-5611-7102-8

定 价: 35.00 元

この本をお使いになる方へ

このテキストは、2009年度大連理工大学出版社から出された、大連理工大学日本語学部編集の『新総合日本語』シリーズ教材の上級編になります。基本的に初級を終えた、或いは中級段階の学習者を対象と致します。**大学生の場合、大学三年生を対象とするものです。社会人の場合、日本語中級程度、或いは日本語能力試験N2レベル相当の学習者をも対象に入れております。**基礎段階で終えられた体系的学習を深めながら、更に総合的な日本語の運用能力を高めることを目指すものです。

初級或いは中級段階で日本語表現の基礎を中心にしてきたのに対して、上級レベルでは言語の運用能力、コミュニケーション能力を高めることを目標に設定されており、つまりこれまで習ってきた日本語を使って何かを習得したり、自己表現したりすることが目標となります。例えば、中級までは文章はどんな内容のものだったのか、語彙や文法表現はどんな意味を表しているのかなどだったものを、上級では、作者は何を言いたかったのか、作者の主張についてあなたはどうか考えているのか、またどうすべきなのかなどを、皆と議論しながら言語の運用能力を伸ばすものになります。勿論、各課には語彙や文法或いは表現の説明も細かにあり、初級後半レベルの学習者も十分お使いいただけるように配慮致しました。

日本語ばかりではなく、あらゆる言語の取得には実践が付きもので、よって本書ではグループ活動という実践項目を、一人でもペアやグループでも完結可能な形で多目に盛り込みました。ぜひ本書を使って、活動にチャレンジしていただきたいものです。

多くの学習者にとってより日本語能力を上達させられる手助けになれば幸いです。

このテキストを使って指導される方へ

本書は以下の理念に基づき作成致しました。

1. 本書の理念

①実践的言語学習をすること

★言語の習得は実践が伴わなければ、運用力が身に付けられるものではないと思われます。

②思考を深めること

★知識を鵜呑みにするのではなく、作者の主張を自分なりに理解し、価値判断することもあります。

③自己表現を大事にすること

★自己主張をする、またできるように努力することが大事です。

④自立学習を養いながら、協働学習を学ぶこと

★自立学習は勿論大事ですが、他者との協力によって勉学することも大事です。

⑤問題を発見し、解決する能力を身に付けること

★上級段階の日本語学習では、勉強中に疑問を持つこともあると思います。そこで、ただ疑問を持つばかりではなく、解決能力、つまり課題を見つけ、更に完成させる能力も身に付けてほしいものです。

⑥自分に目覚めること

★最後に、本書を通して自己発見の道が開けたら、我々にとってこの上ない喜びです。

2. 本書の主旨と目標

本書は言語の運用能力をベースに、学習者の総合的なコミュニケーション能力を養うことを目指すものです。具体的に次の3点に凝縮しました。

①コミュニケーション能力の向上

★言語習得の目的とも言える、異文化他者とのコミュニケーション能力を向上させることにあります。

②自己アピール能力の向上

★自分の思考力を鍛え、更に表現できる能力を鍛えることにあります。

③協働学習能力の向上

★他者との協力によって習得する力、つまり協働学習を進めることにあります。

3. 本書の構成

各課は次のような構成になっております。

①グループ活動Ⅰ

★ウォーミングアップのための課題です。本番に入る前の前作業にあたるもので、連想など学習ストラテジーの多用により、より本文内容の理解を深めるために、また連想することによって関連知識の運用や語彙力の増加を目指すものです。

②本文

★学習する文章になります。

③ 作家紹介

★学習者がよりよく作品を理解できるように、作家に関する基本情報を提供致しました。この部分は学習者たちの自主学習をねらい、更に詳細な情報提供を課題として完成してもらうこともよいでしょう。

④語彙と文法と表現

★文章理解を促すための関連知識です。語彙の意味説明や、文法の意味と使い方と例文、慣用表現の意味解説などからなります。

⑤内容理解のポイント

★文章の内容をより良く理解させるために、また考えさせる力を鍛えるために、設問を多目に設置いたしました。設問の内容は文脈における語彙内容の説明から、段落や作者の意図など、様々な角度から考える力を付ける課題からなります。この段階での教室活動への展開もお勧めします。つまり設問の内容を一人でも、ペアやグループでも相談しながら解決させていくことをお勧めします。

⑥グループ活動Ⅱ

★本文の学習を終えた段階で、本文内容と関連して、深めるための課題を設置致しました。この部分でも協働学習をお勧めします。

⑦広く読もう

★更に能力アップする段階のものです。特に学習意欲が旺盛な学習者のために、文章の関連情報を少し提供致しました。

⑧グループ活動Ⅲ

★関連文章を読んだ段階になり、更に本文内容を深めるための思考力、問題意識の提起、また、問題を完成させるための課題になります。授業内外を問わず、協働学習をお勧めします。

⑨発展課題(協働)

★基本的に授業外における課題になります。授業時間が限られているので、授業外でも議論や表現の場を提供するために設置いたしました。必要に応じて行えばよろしいでしょう。

⑩勉強の窓

★テキストの補助とも言えるこの部分は、テキストに設置された各種教室活動をよりよく展開するために、それぞれの活動はどんなものなのか、どんなルールがあるのか、またどんな段取りで実行するのかを、実例を持って説明しています。是非学習者に参考にしてもらいたい部分です。

⑪その他

★付録には単語、慣用表現、文法・表現が付いています。

4. 本書を使った指導に関する基本情報

①対象者・レベル

★中級或いは中級以上の学生、社会人

②所要時間

★1課ごとに完結されており、内容の長さや深さによって時間の配分は教師ご自身で設定される事をお勧めしますが、基本的に1課ごとの所要時間は約90分～180分が理想的だと想定されています。

③クラスのサイズ

★クラスのサイズにより、授業の進め方も違ってきます。小人数クラス2～6人から、30人前後のクラスまでさまざまな対応が可能なグループ学習をお勧めします。また、教師ご自身によって臨機応変な授業展開をなさるのもよいでしょう。

④テキスト・活動のタイプ

★多様な教室活動をお勧めします。個人における発表や課題の完成、或いはペアやグループワークでの協働学習もお勧めします。また、諸先生方の更なる多彩な教室活動の展開を期待してやまないものです。

大連理工大学日本語学部編集者一同

2012年7月

本书使用说明（一）

2009年大连理工大学日语系编写的《新综合日本语》（基础篇）得以在大连理工大学出版社出版，而这套《高级日语》（高级篇）是这一系列教材的高级篇。学习对象为较好地完成了初级阶段日语学习的学习者，或者中级阶段以上的日语学习者。如果是面向日语专业的学生，则为大学三年级使用的精读课的课本；如果是面向社会自学者，我们建议有一定的日语基础，或基本完成了初级阶段的日语学习，即将进入或者已经进入中级乃至高级阶段的日语学习者自学使用。对于自学能力较强的自学者来说，将是拔高、提升自己的极好契机。本书的目标是：继续深入基础阶段的较系统的学习，同时以提高日语的应用能力为目标，努力提升个人的综合能力。

初级阶段乃至中级阶段的日语学习主要以打好日语语言基础功底为主，而高级阶段的日语学习主要以提高语言的应用能力、跨文化交际能力的掌握为主。即将至今为止掌握的语言应用起来，通过学习过的语言来掌握知识，用来表达个人的思想感情等。基础阶段的学习重点以课文里的语言表达理解，语法内容的理解乃至整体内容的理解为主，而高级阶段的学习以注重作者的意图，对作者的主张等个人的理解为主，通过参与课堂活动等用语言表达自己的主张、见解。要提到的是，我们认为发表个人意见时观点的对错不重要，重要的是会用日语表达自己的见解，以提高语言的应用能力。

每课后我们都附有单词、语法及固定表现的详细解释与说明，如果基础打得好的话，初级后期的学习者也可循序渐进地跟进本书。

另外一定切记，语言是一门实践性很强的学科，为此本书中设定了许多与课文相关的话题、问题和课题，这些课堂活动只要您认为可行，可以以一个人、两个人或者小组等任何形式展开，希望广大学习者一定抱着坚定的信念，挑战各项活动的开展，为提高语言的应用能力而努力。

我们期望此书能成为您的有力帮手，让更多的日语学习者通过此书的学习而使语言应用能力得以提高，为此我们也将不胜欣慰。

本书使用说明（二）

1. 本书的编写理念

①以实践性学习为目的

★我们认为语言的应用能力只有通过实践才能真正提高。

②主张思考性学习

★任何知识的学习都不要死记硬背，不仅要理解作者的主张，更要学会思考，形成自己的观点并加以表达。

③勇于表达自我

★语言是工具，既然是工具就要学会去运用它，运用它来表达自己的思想感情，这是非常重要的。

④培养自主学习能力的同时，学会协作学习。

★自主学习当然很重要，与他人协作学习的能力也是社会人应该具备的基本条件之一。

⑤培养学习者发现问题、解决问题的能力

★高级日语学习阶段，在学习中发出疑问非常重要，既要学会发现问题，同时也要学会解决问题。

⑥通过学习发现自我

★最后，希望广大学习者通过本教材的学习，最终能够对自我有所发现，并能持之以恒地坚持下去，我们将感到万分欣慰。

2. 本书编写的宗旨及目标

本书的编写宗旨是：以提高学习者的语言应用能力为基本目标，同时综合培养日语学习者的语言交际能力。具体可归纳为以下3点：

①培养日语学习者的语言交际能力

★主要培养日语学习者的跨文化理解能力和跨文化交际能力

②培养日语学习者的自我表达能力

★培养日语学习者的思考能力以及自我表达能力

③培养日语学习者的协作学习能力

★如果自主学习是每个人应具备的基本学习能力的话，那么参与小组及团队锻炼与人协作的能力同样也是作为社会人的基本条件，也是我们培养的目标之一。

3. 本教材的基本构成

本教材的内容基本涵盖了高年级日语专业教学大纲所要求的知识范围。内容主要涉及到文学、语言、文化、经典话题、科技等方面,文体涉及到随笔、评论、访谈、小说及诗歌等。

每课内容主要由以下几个方面组成:

①课前热身活动 I

★“课前热身活动”主要是通过回想、讨论、讲解等唤起学生的相关背景知识,从而增强学习者对词汇的印象及回想以往所学知识,加深对将进行的课文内容的理解。

②本文

★为学习的主课文内容部分。

③作者介绍

★为了方便学习者加深对课文内容的了解,提供了作者的基本信息。建议在具体的课堂内容进行中发挥学习者的积极性,由学习者完成对作者的更加详细的、多方位的信息调查。

④词汇与表现

★为了便于学习者自学,特别是自学者更好地理解课文内容,我们对单词、语法、惯用语句表现等做了详细地解释,语法部分有参考例句等。在这部分里,主要让学生掌握所需的基本日语语言知识,增强对课文内容的分析理解能力。

⑤围绕课文内容的提问

★为了深入理解课文内容,围绕课文中的知识点、语言点及作者的观点等提出问题或课题,培养学习者思考问题并解决问题的能力,问题可以独自或几人共同讨论完成,并在课题完成过程中逐渐意识到协作学习的重要性及其能力培养的重要性。

⑥课堂活动 II

★就课文内容进行深入展开的课堂活动与课前热身活动中提及到的部分相关知识或内容起到相辅相成的作用,就课文内容学习中发现的问题进行探讨、分析、发表等,加深对课文内容的深入理解。

⑦相关阅读

★主要针对课文内容进行展开,扩大相关知识面,为学习者进一步提高能力提供空间。

⑧课堂活动 III

★这部分活动内容主要对课堂内容进行深入的思考和讨论。主要目的是加深对课文内容的深入理解。在深入理解的同时,唤起学习者对此问题的思考,发现问题并通过活动来解决问题,并且在完成过程中达到协作学习的目的。

⑨扩展活动

★主要目的是给学习者提供课余互动的机会。既可以对本课内容进行更深入的探讨,又可以培养学习者之间的协作能力,以提高学习者的协作学习能力为主要目标。

⑩学习之窗

★这部分将对课堂学习起到辅助性的作用。为了将各课设置的课堂活动更有效地展开，这部分主要介绍各种活动的具体内容，比如说：是什么样的活动，都有些什么形式，有什么规定，按什么顺序进行等，每部分都有实例进行实际说明。建议学习者一定要参考进行。

⑪其他

★课后附有附录，内容包括词汇、惯用表达和语法·表现。

4. 使用本书的学习者条件（供参考）

①学习对象及日语水平

★日语中级或中级以上水平的学生或自学者。

②学习所需时间

★每一课都是独立的课文内容，建议可根据课文的长短、内容深度等教师自行安排、掌握进度。我们基本设想每课所需上课时间为90~180分钟（可根据实际情况自行规定进度时间）。

③班级人数

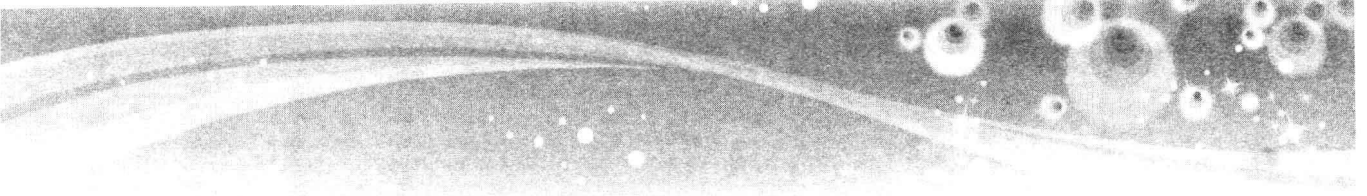
★根据班级人数的不同，课堂形式可以自行决定。小班人数可以在2~6人等，大班人数可以在30人左右。教师可根据班级人数多少决定课堂活动的开展，人数少可单独提问或两个人等进行，人数多可组成若干个小组同时进行，也期望各位教师同仁有更好的、丰富多彩的课堂活动展示给学生们。

④教材及活动的形式

★我们期望是活跃的教室气氛，丰富多彩的教室活动。可以有个人发表及课题的完成，也可以两个人一组或多人一组共同完成课题。学习者之间的互动互助学习也是主要培养目标之一。同时我们期待各位教师同仁能将更好的课堂活动形式运用到课堂上，并给我们提出宝贵的意见。非常感谢您对我们的支持。

大连理工大学日语系《高级日语》编写组

2012年7月



目 录

この本をお使いになる方へ	3
このテキストを使って指導される方へ	4
本书使用说明（一）	7
本书使用说明（二）	8
目 录	11
第1課 水の東西	1
第2課 視学の解剖学	19
第3課 天声人語二編	30
第4課 清兵衛と瓢箪	44
勉強の窓（一）感想文・随想	60
第5課 さくらさくらさくら	64
第6課 日本人と異文化コミュニケーション	77
第7課 課題としての遊び	95
第8課 「おもしろい」と「分かる」	109
勉強の窓（二）小説	125

第9課	理由なき喜び	130
第10課	日常性の壁	145
第11課	善女のパン	161
第12課	時間の不思議	180

勉強の窓（三）小論文	197
------------	-----

第13課	知識の扉	202
第14課	二度目の宇宙飛行から帰って	216
第15課	「ふしぎ」ということ	230
第16課	朝日社説	243

勉強の窓（四）手紙	257
-----------	-----

付録

1. 単語	263
2. 慣用表現	280
3. 文法・表現	282

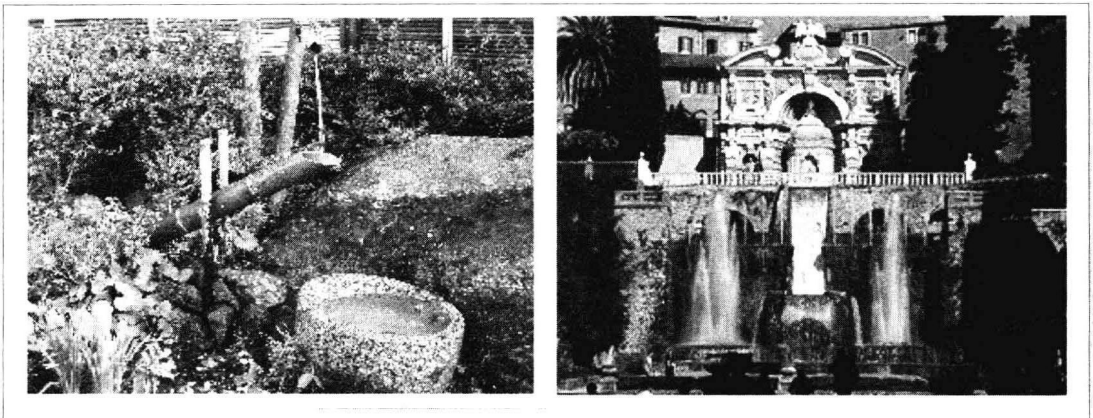


第 1 課 水の東西

グループ活動 I

(ちょっと話してみよう)

1. 「水の東西」というタイトルから、内容を推察してみよう。
2. 中国人は水に対して、どのように考えているか、話し合ってみよう。



中国で水と言えば何を連想するだろう。

本 文

山崎 正和

「鹿おどし」が動いているのを見ると、その愛嬌あいこうしの中に、なんとなく人生の気だるさのようなものを感じることがある。かわいらしい竹のシーソーの一端に水受けが付いて、それに筧かきの水が少しずつたまる。静かに緊張が高まりながら、やがて水受けがいっぱいになると、シーソーはぐらりと傾いて水をこぼす。緊張が一気に解けて水受けが跳ね上がる時、竹が石をたたいて、こおんと、くぐもった優しい音を立てるのである。

見ていると、単純な、緩やかなリズムが、無限にいつまでも繰り返される。緊張が高まり、それが一気にほどけ、しかし何事も起こらない徒労がまた一から始められる。ただ、曇った音響が時を刻んで、庭の静寂と時間の長さをいやが上にも引き立てるだけである。水の流れなのか、時の流れなのか、「鹿おどし」は我々に流れるものを感じさせる。それをせき止め、刻むことによって、この仕掛けはかえって流れてやまないものの存在を強調していると言える。

私はこの「鹿おどし」をニューヨークの大きな銀行の待合室で見たことがある。日本の古い文化がいろいろと紹介される中で、あの素朴な竹の響きが西洋人の心をひき付けたのかもしれない。だが、ニューヨークの銀行では人々は余りに忙し過ぎて、一つの音と次の音との長い間隔を聴くゆとりはなさそうであった。それよりも窓の外に噴き上げる華やかな噴水のほうが、ここでは水の芸術として明らかに人々の気持ちをくつろがせていた。

流れる水と、噴き上げる水。

そう言えばヨーロッパでもアメリカでも、町の広場には至る所に見事な噴水があった。ちょっと名のある庭園に行けば、噴水は様々な趣向を凝らして風景の中心になっている。有名なローマ郊外のエステ家の別荘など、何百という噴水の群れが庭をぎっしりと埋め尽くしていた。樹木も草花もここでは添え物にすぎず、壮大な水の造型がとどろきながら林立しているのに私は息をのんだ。それは揺れ動くバロック彫刻さながらであり、ほとぼしるというよりは、音を立てて空間に静止しているように見えた。

時間的な水と、空間的な水。

そういうことをふと考えさせるほど、日本の伝統の中に噴水というものは少ない。せせらぎを作り、滝を懸け、池を掘って水を見ることはあれほど好んだ日本人が、噴水の美だけは近代に至るまで忘れていた。伝統は恐ろしいもので現代の都会でも、日本の噴水はやはり西洋のものほど美しくない。そのせいか東京でも大阪でも、町の広場はどことなく間が抜けて、表情に乏しいのである。

西洋の空気は乾いていて、人々が噴き上げる水を求めたということもあるだろう。ローマ以来の水道の技術が、噴水を発達させるのに有利であったということも考えられる。だが、人工的な滝を作った日本人が、噴水を作らなかった理由は、そういう外面的な事情ばかりではなかったように思われる。日本人にとって水は自然に流れる姿が美しいのであり、圧縮したりねじ曲げたり、粘土のように造型する対象ではなかったのだから。

言うまでもなく、水にはそれ自体として定まった形はない。そうして、形がないということについて、恐らく日本人は西洋人と違った独特の好みを持っていたのである。

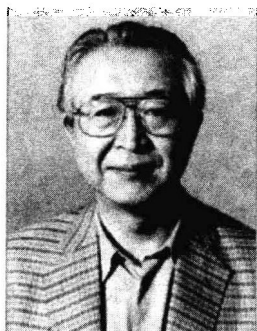
「行雲流水」という仏教的な言葉があるが、そういう思想はむしろ思想以前の感性によって裏付けられていた。それは外界に対する受動的な態度と言うよりは、積極的に、形なきものを恐れない心の現れではなかっただろうか。

見えない水と、目に見える水。

もし、流れを感じるだけで大切なのだとしたら、我々は水を実感するのにもはや水を見る必要さえないと言える。ただ断続する音の響きを聞いて、その間隙に流れるものを間接に心で味わえばよい。そう考えればあの「鹿おどし」は、日本人が水を鑑賞する行為の極致を現す仕掛けだと言えるかもしれない。

山崎 正和（やまざき まさかず）

作家紹介



昭和九年(1934年)～ 。劇作家・評論家。京都府の生まれ。ユニークな構想による戯曲『世阿弥』『実朝出帆』などで高い評価を得、また、『劇的な日本人』『鷗外闘う家長』『柔らかな個人主義の時代』などの多面的な評論活動で、日本人とその文化についての優れた分析と提言とを続けてきている。

本文は『混沌からの表現』(1977年刊)による。

語彙と文法・表現

一、文化語彙の説明

1. 鹿おどし：

庭園用の設備の一つ。本来は鹿やいのししが庭に入らないように追い払うためのものであった。添水・しかおどしとも言う。

2. 添水：

水力により自動的に音響を発生する装置である。中央付近に支点を設け、一端を開放した竹筒に水を注ぎ、水がいっぱいになるとその重みで竹筒が傾き、水がこぼれて内部が空になる。すると竹筒は元の傾きに戻る。この際に竹筒が支持台（石など）を叩き、音響を生ずる。後に風流としてその音を楽しむようになり、日本庭園の装飾として設置されることが多くなった。代表的なものとして京都の詩仙堂のものがある。エクステリアの装飾品としても用いられる。

3. 笕：

竹や木でできた水を通す樋（とい）。

4. シーソー：

長い板の中央に支点を置き、板の両端に人が乗って互いに上がったたり下がったりして遊ぶ遊具。また、その遊び。ぎっこんばったん。ぎったんばっこん。

5. エステ家：

イタリアで最も古い貴族の一つ。

6. バロック：

（仏）十六世紀末から十八世紀中ごろにかけて、ヨーロッパに流行した芸術の様式。彫刻では、壮大な構想と曲線的技巧が特色である。

7. ローマ以来の水道の技術：

紀元前四世紀末から紀元後三世紀初めにかけて、古代ローマで下水道や上水道が整備されたことをいう。